

第1回「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会

日時：令和5年12月18日(月)午後3時30分～

場所：ライトキューブ宇都宮1階 小会議室101, 102

次 第

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会の設置について
 - (1) 設置要綱等について
 - (2) 委員の紹介
 - (3) 会長の選任について
- 4 会議の公開について
- 5 議 題
 - 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の策定について 資料1
- 6 そ の 他
- 7 閉 会

〔配布資料〕

- ・ 次第・名簿
- ・ 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会設置要綱
- ・ 資料1 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の策定について
- ・ 参考 「JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想」(平成25年3月)

第1回「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会 出席者名簿

(敬称略)

分野	所属/職名	氏名	出欠	代理者職名	代理者氏名
学識経験者	早稲田大学理工学術院 教授	森本 章倫	○		
	東京大学大学院 教授	中井 祐	○		
	宇都宮大学 准教授	長田 哲平	○		
関係団体	JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 会長	市村 耕三	○		
	JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 副会長	坂本 守弥	代理	理事	稲葉 浩幸
	ゼビオホールディングス株式会社 副社長執行役員	近野 泰	○		
	株式会社日本エスコン 開発事業本部 首都圏開発2部 PM部マネージャー	庄司 元康	○		
	宮の橋・田川活性化プロジェクト実行委員会 実行委員長	村上 龍也	○		
	築瀬地区連合自治会 会長	栗原 伸一	○		
	錦地区連合自治会 会長	増田 良二	○		
	社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長	平手 義章	○		
	特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 事務局長	高橋 功	○		
	宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之	○		
	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 まちづくり支援部 部長	鈴木 孝弘	○		
交通事業者	東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 企画総務部経営戦略ユニットユニットリーダー	伊藤 滋	○		
	JR宇都宮駅西口構内バス協議会 (関東自動車株式会社 代表取締役社長)	吉田 元	代理	路線バス部 部長	福島 崇文
	JR宇都宮駅西口構内タクシー組合 (泉タクシー株式会社 代表取締役社長)	荒井 勝	○		
	宇都宮ライトレール株式会社 常務取締役	中尾 正俊	○		
行政機関	栃木県 県土整備部交通政策課長	横尾 元央	○		
	栃木県 県土整備部都市計画課長	笹沼 政行	○		
	栃木県警察本部 交通部交通規制課長	大澤 賢吾	代理	交通規制課 課長補佐	鈴木 克範

「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会設置要綱

(設置)

第1条 「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」の策定に当たり、学識経験者や関係団体、交通事業者などから幅広く意見を聴取するため、「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会（以下「懇談会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 懇談会の委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験を有する者
- (2) 関係機関及び関係団体の代表者等
- (3) その他市長が必要と認める者

2 懇談会委員の任期は、市長が委嘱した日から所掌事務が終了する日までとする。

3 関係機関及び関係団体の代表者等は、委嘱されたときにおける当該職又は身分を失ったときは、その職を失う。

4 市長は、懇談会の委員が次の各号のいずれかに該当するときは、解嘱することができる。

- (1) やむを得ない理由により解嘱を申し出たとき
- (2) その他解嘱することにつき相当な理由があると市長が認める場合

(懇談会)

第3条 懇談会の所掌事務は、次のとおりとする。

(1) (仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画の策定検討に関すること。

2 懇談会に会長及び副会長それぞれ1人を置き、懇談会の委員のうちから互選によってこれを定める。

3 懇談会は、会長が招集し、会議を主宰する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 懇談会の会議は、原則として公開とする。

附 則

この要領は、令和5年12月18日から適用する。

「(仮称)JR宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画」策定懇談会 名簿

(敬称略)

区分	分野	所属/職名	氏名	
第2条1項 1号	学識経験者	早稲田大学理工学術院 教授	森本 章倫	
		東京大学大学院 教授	中井 祐	
		宇都宮大学 准教授	長田 哲平	
第2条1項 2号	関係団体	JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 会長	市村 耕三	
		JR宇都宮駅西口地区まちづくり協議会 副会長	坂本 守弥	
		ゼビオホールディングス株式会社 副社長執行役員	近野 泰	
		株式会社日本エスコン 開発事業本部 首都圏開発2部 PM部マネージャー	庄司 元康	
		宮の橋・田川活性化プロジェクト実行委員会 実行委員長	村上 龍也	
		築瀬地区連合自治会 会長	栗原 伸一	
		錦地区連合自治会 会長	増田 良二	
		社会福祉法人 宇都宮市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長	平手 義章	
		特定非営利活動法人 宇都宮まちづくり推進機構 事務局長	高橋 功	
		宇都宮商工会議所 常務理事	小関 裕之	
	交通事業者	独立行政法人 都市再生機構 東日本都市再生本部 まちづくり支援部 部長	鈴木 孝弘	
		東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 企画総務部 経営戦略ユニット ユニットリーダー	伊藤 滋	
		JR宇都宮駅西口構内バス協議会 (関東自動車株式会社 代表取締役社長)	吉田 元	
		JR宇都宮駅西口構内タクシー組合 (泉タクシー株式会社 代表取締役社長)	荒井 勝	
	行政機関	宇都宮ライトレール株式会社 常務取締役	中尾 正俊	
		栃木県 県土整備部交通政策課長	横尾 元央	
		栃木県 県土整備部都市計画課長	笹沼 政行	
			栃木県警察本部 交通部交通規制課長	大澤 賢吾

第1回(仮称) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画策定懇談会

(仮称) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画の策定について

< 計画の概要と地区の現状分析と課題整理, 将来像 >

◎ 趣 旨

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画の策定に向け, 計画の位置づけ・構成, 現状・課題, 地区の将来像などについてご意見を伺うもの

令和5年12月18日

宇都宮市 都市整備部 市街地整備課

(仮称) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本計画の策定について

- (1) 地区の概要
- (2) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想
- (3) 計画の概要（目的・位置づけ・構成）
- (4) 現状と課題（空間・交通・景観・社会状況）
- (5) 地区の将来像
- (6) 将来像実現に向けた取組方針

【趣 旨】

- ・ J R 宇都宮駅西口周辺地区の現状分析と課題整理，課題解決に向けて目指すべき約30年後の将来像（将来像実現に向けた取組方針）についてご意見を伺うもの

⇒第6次宇都宮市総合計画の基本構想の目標年次である2050年の目指すべきまちの実現に向けて、**約30年後の駅前空間の将来像について官民で共通認識を図る**

○将来像の検討の流れ

1 現状
現状分析・課題整理

【次回以降】

3 駅前広場の整備計画
2030年代前半(約10年後)

概ね2050年の将来像を見据えて
駅前広場の整備計画を検討

2 将来像
概ね2050年(約30年後)

第1回

整備基本計画の位置づけ・構成

現状分析と課題整理

J R 宇都宮駅西口周辺地区の将来像（概ね2050年）

第2回以降

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備に向けた戦略

J R 宇都宮駅西口周辺地区の整備方針

駅前広場の整備計画（2030年代前半のL R T開業時）

整備基本計画素案のとりまとめ

(1) 地区の概要

駅前広場

バスやタクシー、一般車の乗降場など交通結節点となるエリア

【主な問題点】

- ・バスと一般車両の錯綜
- ・自動車動線と歩行者動線の交錯

北地区

対象範囲北側に位置し、旧篠原家住宅などの文化財や市営及び民営の駐車場や自転車駐車場、民間の企業やホテルなどがあるが、その中で特に平面駐車場が区域の多くを占めているエリア

【主な問題点】

- ・大規模な低未利用地が存在

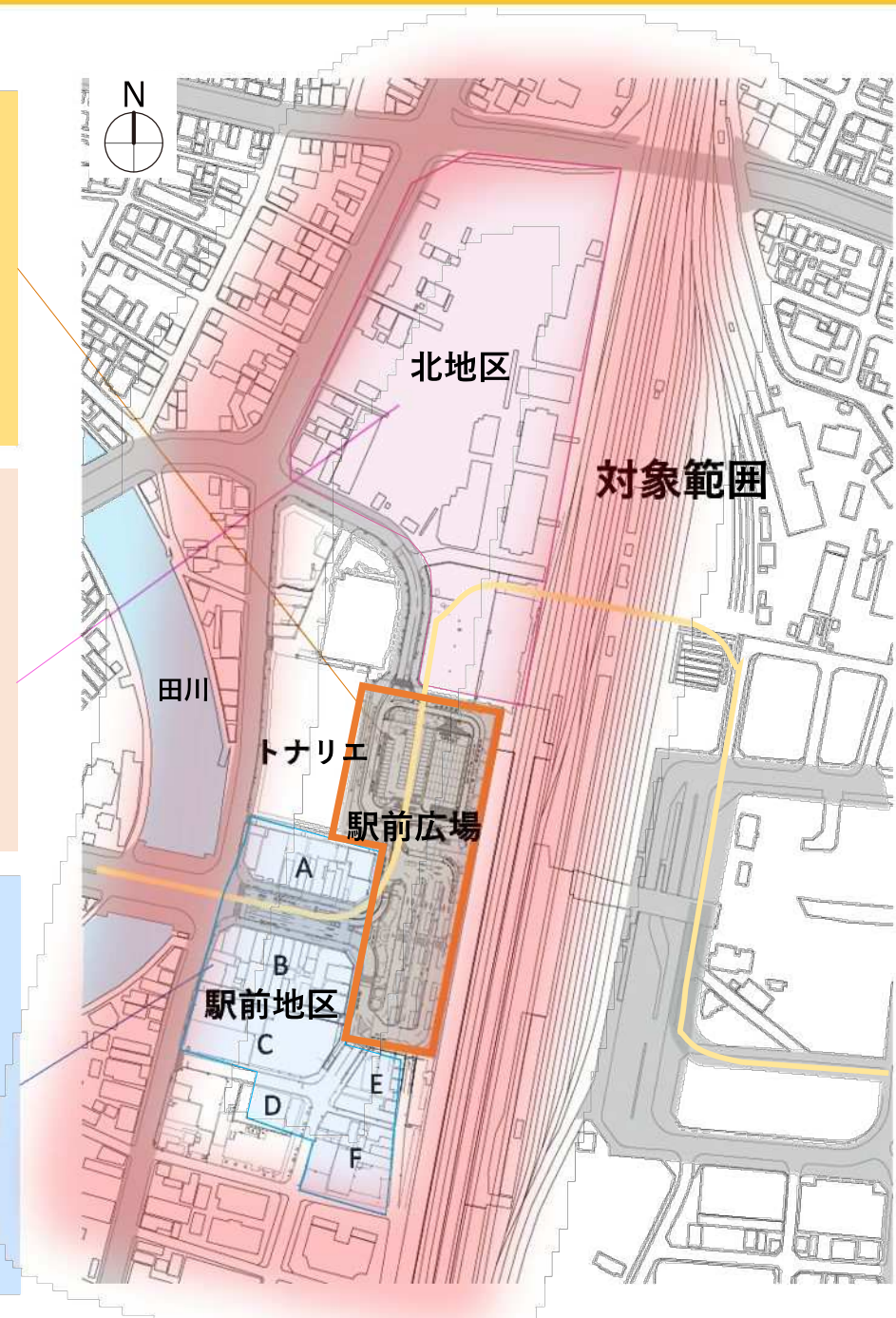
駅前地区

対象範囲南側に位置し、市街地再開発事業などの検討が行われているエリア

(E街区にて工事着工、B街区にて準備組合を組織)

【主な問題点】

- ・建築物の老朽化
- ・看板が乱雑に立ち並ぶなど、景観の統一感が不足



(2) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想 (平成25年3月策定)

駅前広場の整備改善や駅前地区における市街地再開発事業の推進、北地区などに存在する低未利用地の活用等の地区整備を一体的かつ効果的に推進し、県都の玄関口にふさわしい活力と魅力あるまちづくりを実現するため、まちづくりの基本方針や土地利用構想などを示したもの

【基本理念】

【まちづくりの目標】

【整備に向けた基本方針】

広域的な交流拠点にふさわしい活力と風格あるまちづくり

空間

1. 楽しさと活気あふれるまちづくり

【都市機能・土地利用の基本方針】

- ① 土地の高度利用などによる商業・業務機能や文化・交流機能等の高次な都市機能の集積
- ② 快適な歩行者ネットワークの形成など、回遊性の向上などによる賑わい空間づくり
- ③ 災害に強く環境にやさしいまちづくり

にぎわい・
交流空間の
創出

交通

2. 交通利便性の高い安全で快適なまちづくり

【交通基盤施設整備の基本方針】

- ① 東西基幹公共交通の導入に対応した交通基盤施設の整備など、広域的な交通の要衝にふさわしい交通結節点の形成
- ② 駅西口周辺地区の発展を支える交通基盤の構築
- ③ 安全で快適な交通空間の形成
- ④ 誰もが使いやすく分かりやすい駅前広場の整備

交通結節
機能の強化

景観

3. 北関東の中核都市の玄関口にふさわしい風格と魅力のあるまちづくり

【景観・アメニティ形成の基本方針】

- ① 田川・大通りなどの地域の景観資源や、旧篠原家住宅・大谷石などの歴史・地域資源を生かした、「玄関口＝顔」となる風格と魅力のある都市景観の形成
- ② オープンスペースの創出・緑化などによる緑や憩い空間の創出による質の高い都市空間の形成

風格と魅力
ある都市景観
の形成

(2) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想 (平成25年3月策定)

【土地利用構想図】

活 力 創 出 ゾ ー ン

- ・ 高次な都市機能を戦略的に誘導
- ・ 低未利用地の有効活用を図る

賑 わ い ・ 交 流 ゾ ー ン

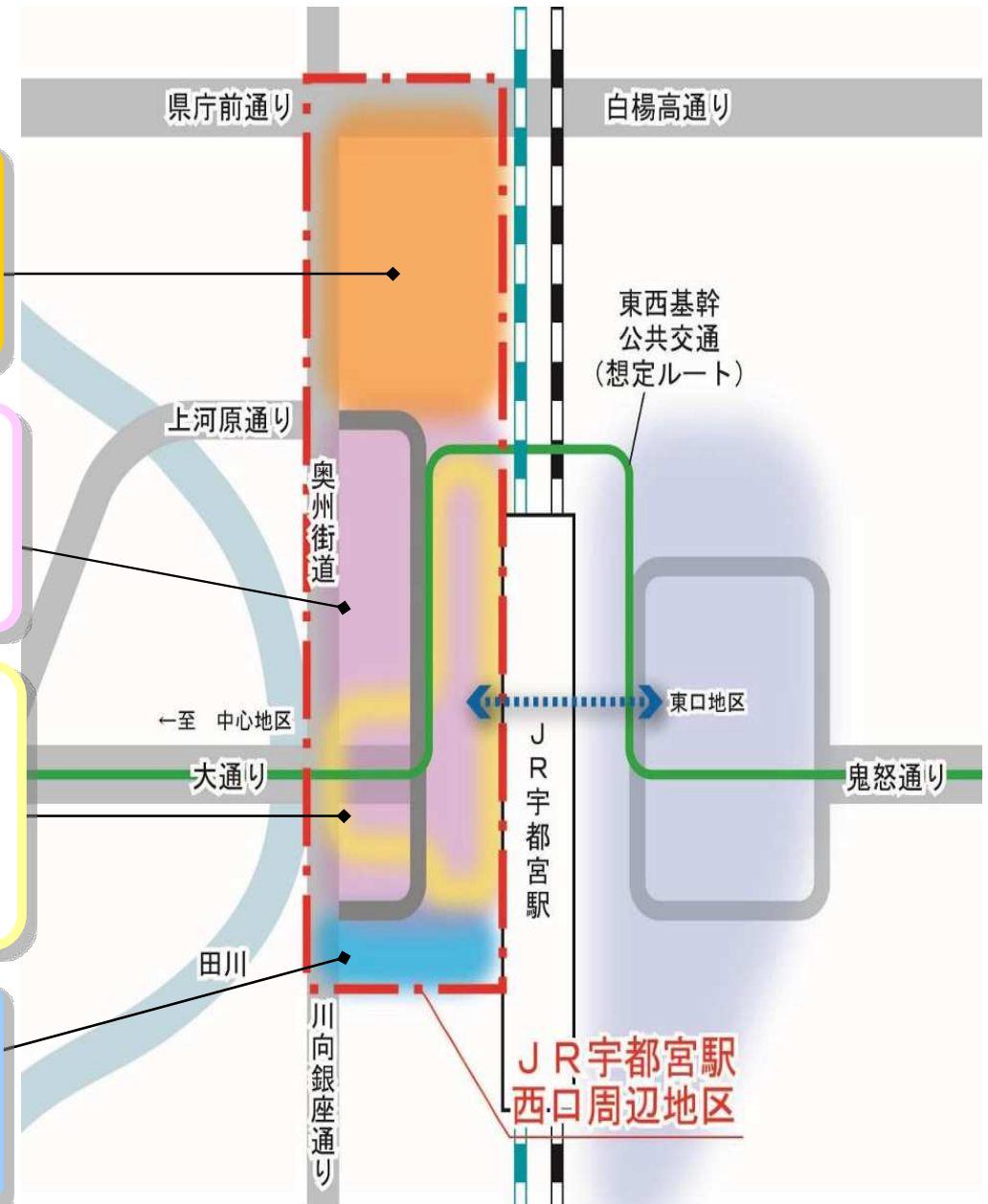
- ・ 広域的な交流拠点として人々を引き込む
- ・ 賑わいを創出する魅力的な都市空間を形成

交 通 ・ お も て な し ゾ ー ン

- ・ 本市への来訪者を迎える玄関口にふさわしい空間を形成
- ・ 交通結節点として機能を強化

暮 ら し ・ く つ ろ ぎ ゾ ー ン

- ・ 人々が生活し、憩いへと繋がる空間づくり
- ・ まちなか居住推進や生活利便性の向上



(3) 計画の概要

① 計画策定の目的

基本構想の策定から約10年が経過していることから、現在の社会状況やまちづくりを取り巻く環境の変化を踏まえ改めて課題整理を行い、基本構想の具現化に向けて駅とまちが一体となった人々にとって居心地の良い空間を創出していく必要がある

【基本構想で示す整備に向けた主な基本方針】



これらの実現に向けては、官民一体となって検討を進めていく必要がある

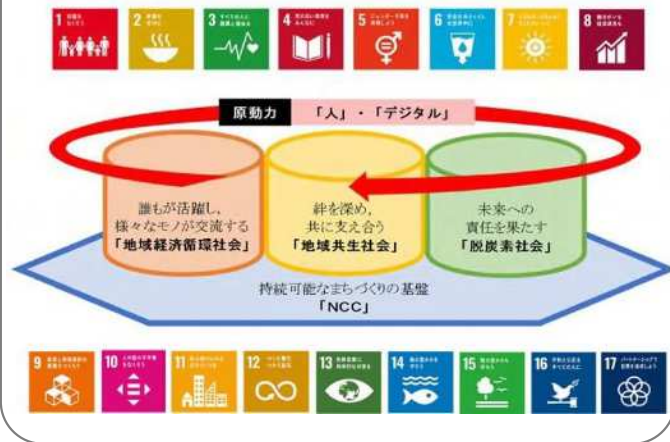
駅とまちが一体となった人々にとって居心地の良い空間を創出していくため、行政・地域・事業者などまちづくりに携わる関係者で共有する駅西口周辺地区の将来像やその実現に向けた整備方針、また、それらを踏まえた駅前空間の施設整備イメージなどを取りまとめた整備基本計画を策定するもの

(3) 計画の概要

② 位置づけ

(1) 第6次宇都宮市総合計画

第6次総合計画の分野別計画「『交通未来都市』の実現に向けて」の基本施策「暮らしやすく魅力のある都市空間を形成する」を実現するための計画



宇都宮市

第6次宇都宮市総合計画

NCCを土台に社会環境の変化に対応した宇都宮市が目指す新たなまちの姿
スーパースマートシティ

(2) 都心部まちづくりビジョン

「スーパースマートシティ」の土台となるNCC形成に資する、都市全体の発展や活力をけん引する都心部の拠点性を一層高めるための計画

< J R 宇都宮駅西口周辺地区の位置づけ >

50万都市“県都”の玄関口として、都心と水・緑が調和した、にぎわい・豊かさ・風格が感じられるまち

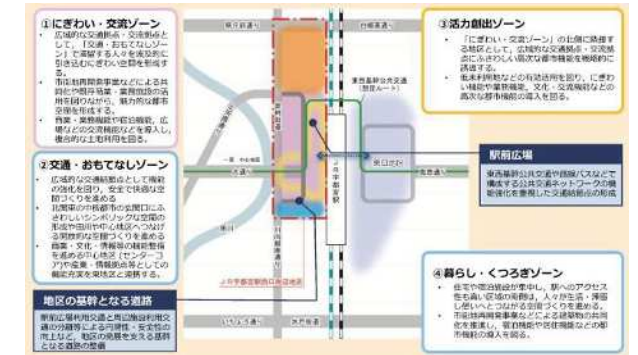


(3) J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想

地区整備を一体的かつ効果的に推進し、県都の玄関口にふさわしい活力と魅力ある駅前空間に再編していくための計画

< 基本理念 >

広域的な交流拠点にふさわしい活力と風格あるまちづくり



構想レベル
基本計画レベル

都心部地域

都心部まちづくりビジョン
(令和4年2月)

(仮称) 都心部まちづくりプラン
(策定中)

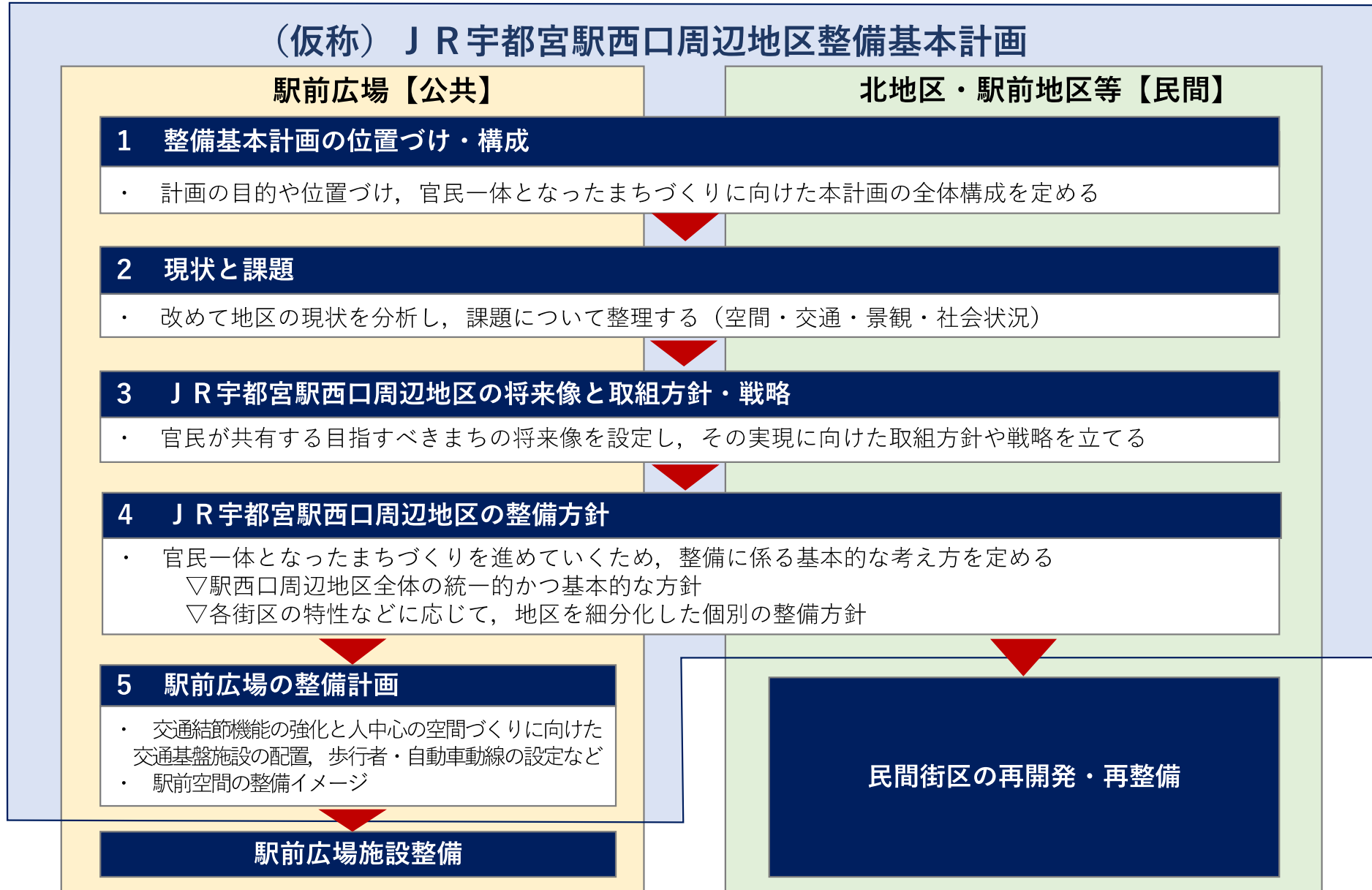
西口周辺地区

J R 宇都宮駅西口周辺地区整備基本構想
(平成25年3月)

(仮称) J R 宇都宮駅西口周辺地区
整備基本計画

(3) 計画の概要

③ 構成



(4) 現状と課題 空間

現状

①建築物の老朽化

周辺街区において建築物の老朽化が進んでいる

②大規模な低未利用地

エリア内に平面駐車場など低未利用地が多く存在している



③まちなか居住の推進

市街地再開発事業などにより、高層マンション等の住宅が増加している



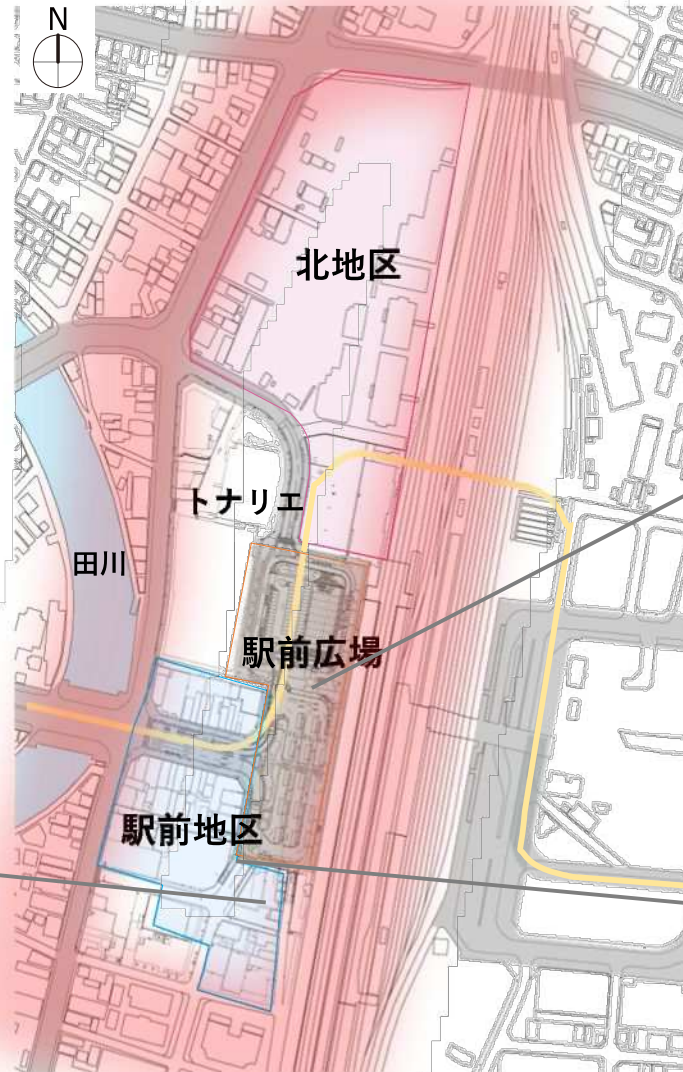
課題

- ・ 低未利用地の有効活用や高度利用を行うなど、より一層の地区の活力や魅力向上を図っていく必要がある
- ・ 建築物の更新等を進めるとともに、良好な生活環境の創出による、さらなるまちなか居住を推進する必要がある
- ・ 東口のまちびらき、LRT開業などによる駅東側の賑わいや人の流れを西側へ繋げ、さらには中心市街地まで繋がる官民一体の土地利用を検討し、ゆとりある歩行者空間や賑わい空間を創出する必要がある

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)



④居心地の良い滞留空間の不足

地上部は自動車中心のレイアウトであるなど、人が滞留する空間が少なく、歩行者にとって居心地の良い空間が形成されていない



⑤官民での一体感に欠けた歩行者空間

道路などの公共空間と周辺の民間街区の区域がはっきり分かれており、官民一体となったゆとりある歩行者空間や賑わい空間が形成されていない



(4) 現状と課題 交通

現状

①自動車・歩行者動線の錯綜

駅前において歩行者・バス・一般車等の動線が錯綜しており、広場内では送迎目的の一般車が長時間路上駐車することによる交通渋滞が発生している



②駅西口のバスの集中とバス待ち列

朝の通勤・通学時間帯などに、駅西口にバスが集中しており、また、バス待ち列がデッキ上まで続いている



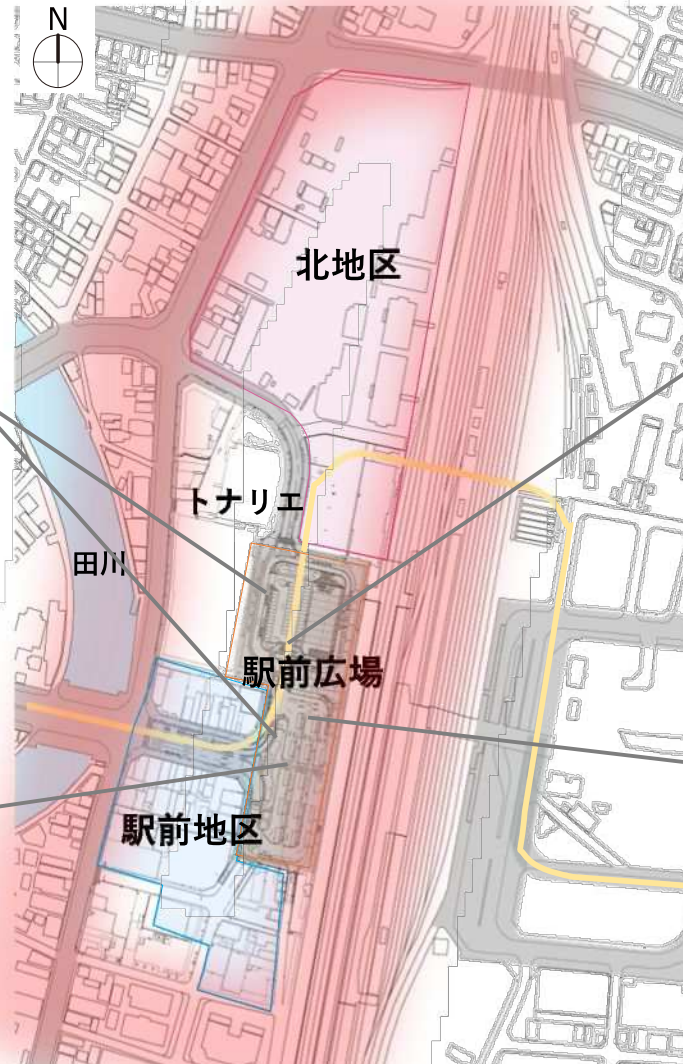
課題

- ・ L R T 導入を見据えた自動車動線・歩行者動線を整理するとともに、誰もが安全・安心に移動できる乗換環境を整備する必要がある (L R T 開業時 (2030年代前半) までに特に対応が必要な課題)
- ・ 交通環境の変化に合わせた可変性のある空間づくりを進める必要がある
- ・ 自動運転等の次世代都市交通サービスへの対応を見据えた空間づくりを検討していく必要がある

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)



③交通結節機能の強化

鉄道 (新幹線, 在来線) や路線バスなど広域交通と域内交通の結節する交通の要衝であり、さらには駅西側の L R T 整備が計画されており、さらなる交通結節機能の強化が期待される

④交通分野におけるデジタル化

デジタル技術の効果的な活用や自動運転技術の進展などによって、交通需要に即応したモビリティ利用や乗換利便性の向上などが期待される



(4) 現状と課題 景観

現状

① 地域資源との繋がりの不足

西口周辺地区に近接して田川が位置しており、またその先には二荒山神社や日本遺産である大谷石文化などの地域資源が存在するが、それらとの繋がりが薄い



② 統一感に欠けた景観

多種多様な看板が乱雑に立ち並ぶなど、景観のまとまりが不足している



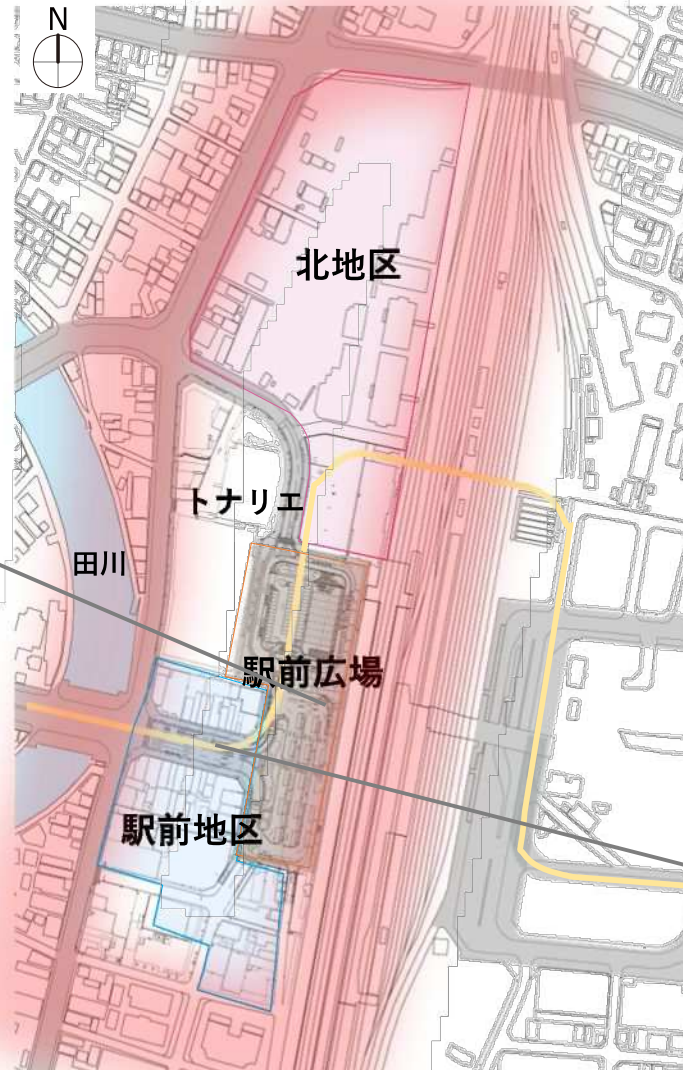
課題

- ・ 田川や大谷石など宇都宮の地域資源を活かした景観形成に取り組む必要がある
- ・ 建築物や看板は形態・意匠に配慮し、緑を活かした統一感のある景観を形成していく必要がある
- ・ 宇都宮のシンボルである L R T と沿線景観などが調和の取れたまちなみを実現していく必要がある

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)



③ 緑を感じられる空間の不足

地区内で緑を感じられる空間が不足している



④ 駅西側 L R T 整備の検討

宇都宮を特徴づける西側 L R T の整備が計画されており、景観が大きく変わることが想定される



(4) 現状と課題 社会状況

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)

現状

①多様化するニーズへの対応

高齢者の増加やグローバル化の進展など、多様化するニーズへの対応に重点を置き、誰一人取り残さないインクルーシブ社会の実現に取り組むことが求められている

※インクルーシブ社会

障がいの有無や国籍・年齢・性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくことを目指す社会

新型コロナウイルス感染症を契機とするリモートワークなどデジタル化が進展している



②脱炭素社会の構築

2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、温室効果ガスの削減や緑化による吸収量の増加への対応が求められている



出典：環境省「脱炭素ポータル」ホームページ



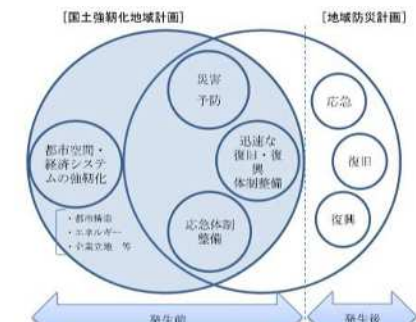
出典：環境省 地域脱炭素ロードマップ

③自然災害に強くしなやかな環境形成

近年、気候変動の影響により、台風の大型化や局所的な大雨などの自然災害が発生している



出典：内閣官房 国土強靱化パンフレット



出典：第2次宇都宮市国土強靱化地域計画

課題

- ・ バリアフリー化やサインデザインの工夫等による多様化するニーズへの対応や、将来的な変化に柔軟に対応できるまちづくりを進めていく必要がある
- ・ 車から人中心のまちづくりによる排出ガス削減や建築物の省エネ化・緑化など、本市が取り組むゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくりを推進していく必要がある
- ・ 円滑な避難路の確保や備蓄倉庫の設置、豪雨時の浸水対策など、防災の視点を考慮した安心安全な環境を形成する必要がある

(5) 地区の将来像

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)

	現 状	課 題	将来像コンセプト (案)
空間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築物の老朽化 ・ 大規模な低未利用地 ・ まちなか居住の推進 ・ 居心地の良い滞留空間の不足 ・ 官民の一体感に欠けた歩行者空間 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅東側の賑わいや人の流れを西側へ繋げ、さらにはまちなかまで繋がる官民一体的な土地利用を検討し、ゆとりある歩行者空間やにぎわい空間を創出する必要がある など 	<p>人中心の新たな「駅まち空間」*</p> <p>▶ 車から人中心の空間へ転換していくことで、人々の賑わい溢れる居心地の良い空間を形成</p>
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車・歩行者動線の錯綜 ・ デッキ上まで続くバスの待ち列 ・ 交通結節機能の強化 ・ 交通分野におけるデジタル化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ L R T 導入を見据えた自動車動線・歩行者動線を整理するとともに、誰もが安全・安心に移動できる乗換環境を整備する必要がある など 	<p>誰もが安全・安心に移動でき、多様なモビリティが連携した交通空間</p> <p>▶ 公共交通の利便性向上と自動車・歩行者の安全・円滑に移動できる空間を形成</p>
景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源との繋がりの不足 ・ 統一感に欠けた景観 ・ 緑を感じられる空間の不足 ・ 駅西側 L R T 整備の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 田川や大谷石など宇都宮の地域資源を活かした統一感のある景観形成に取り組む必要がある など 	<p>水と緑を活かした統一感のある景観形成</p> <p>▶ 宇都宮の地域資源との繋がりを感じられる、水と緑を活かした統一感のある景観を形成</p>
社会状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様化するニーズへの対応 ・ 脱炭素社会の構築 ・ 自然災害に強くしなやかな環境形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バリアフリー化やサインデザインの工夫等による多様化するニーズへの対応が必要である ・ 排出ガス削減や建物の省エネ化・緑化などゼロカーボンシティ実現に向けたまちづくりが必要である など 	<p>社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか</p> <p>▶ 多様化するニーズや社会潮流の変化に対応できる、人と環境に優しい空間を形成</p>

* 駅や駅前広場と一体的に、周辺市街地との関係も踏まえ、必要な機能の配置を検討することが期待される空間

地区の将来像 (案)

県都の玄関口にふさわしい風格とにぎわい溢れる
「交通」と「まち・水・緑」が調和した人中心の居心地の良い空間

(6) 将来像の実現に向けた取組方針

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)

【空間】人中心の新たな駅まち空間

- ① 東側から西側の中心市街地へと人をいざなうため、東西自由通路の軸を中心とし、東西南北に人の流れが繋がるよう動線を結ぶ
- ② 駅から田川までを駅まち一体の公共的な空間とし、人々の憩いの空間を創出
- ③ 居心地が良くウォーカブルな空間とするため、人の滞留空間は地上部に創出
- ④ 北地区の賑わい創出のため、駅、大通りと北地区が繋がるよう動線を結ぶ

【交通】誰もが安全・安心に移動できる交通空間

- ⑤ 歩行者を中心とした、誰もが安全・安心に移動できるスムーズでわかりやすい乗換環境を創出
- ⑥ 交通環境の変化など将来を見据えた適切な交通空間の配置

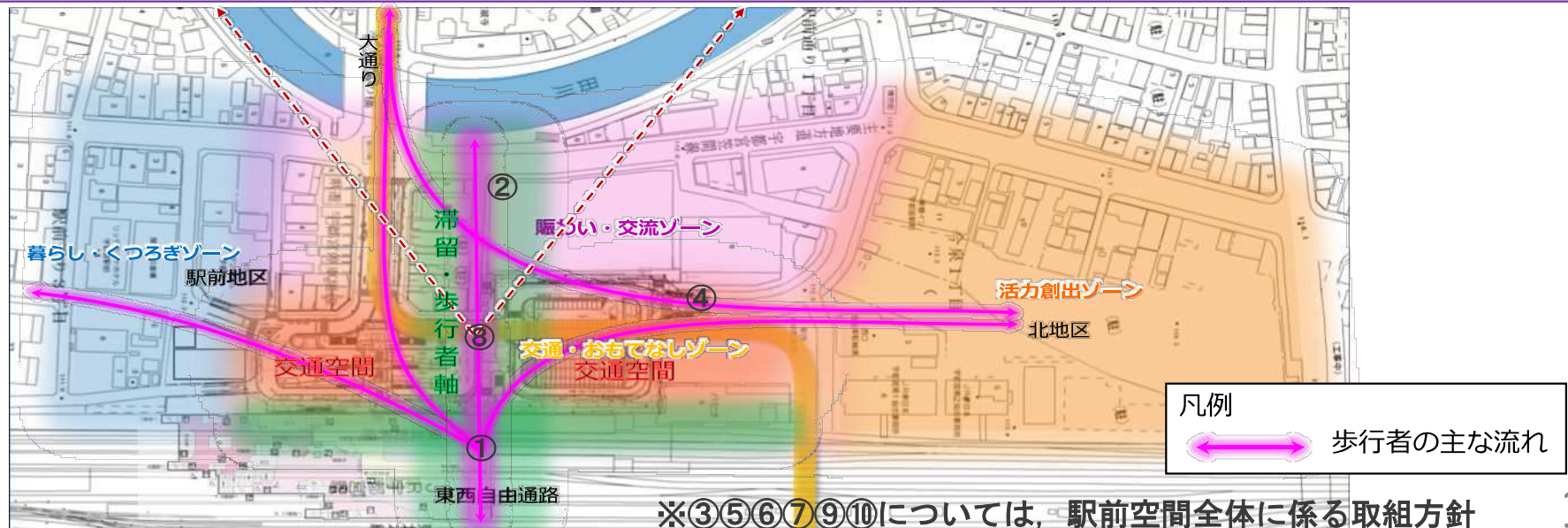
【景観】水と緑を活かした統一感のある景観形成

- ⑦ アイレベルでの景観に配慮した駅前空間を創出
- ⑧ 田川を活かした景観など宇都宮らしさを感じられる視点場・眺望を創出

【社会状況】社会変化に対応できる、人と環境に優しいまちなか

- ⑨ 多様化するニーズや社会潮流の変化への柔軟な対応
- ⑩ 地区内建築物の積極的な省エネ化・緑化などの推進

将来像実現に向けた取組方針



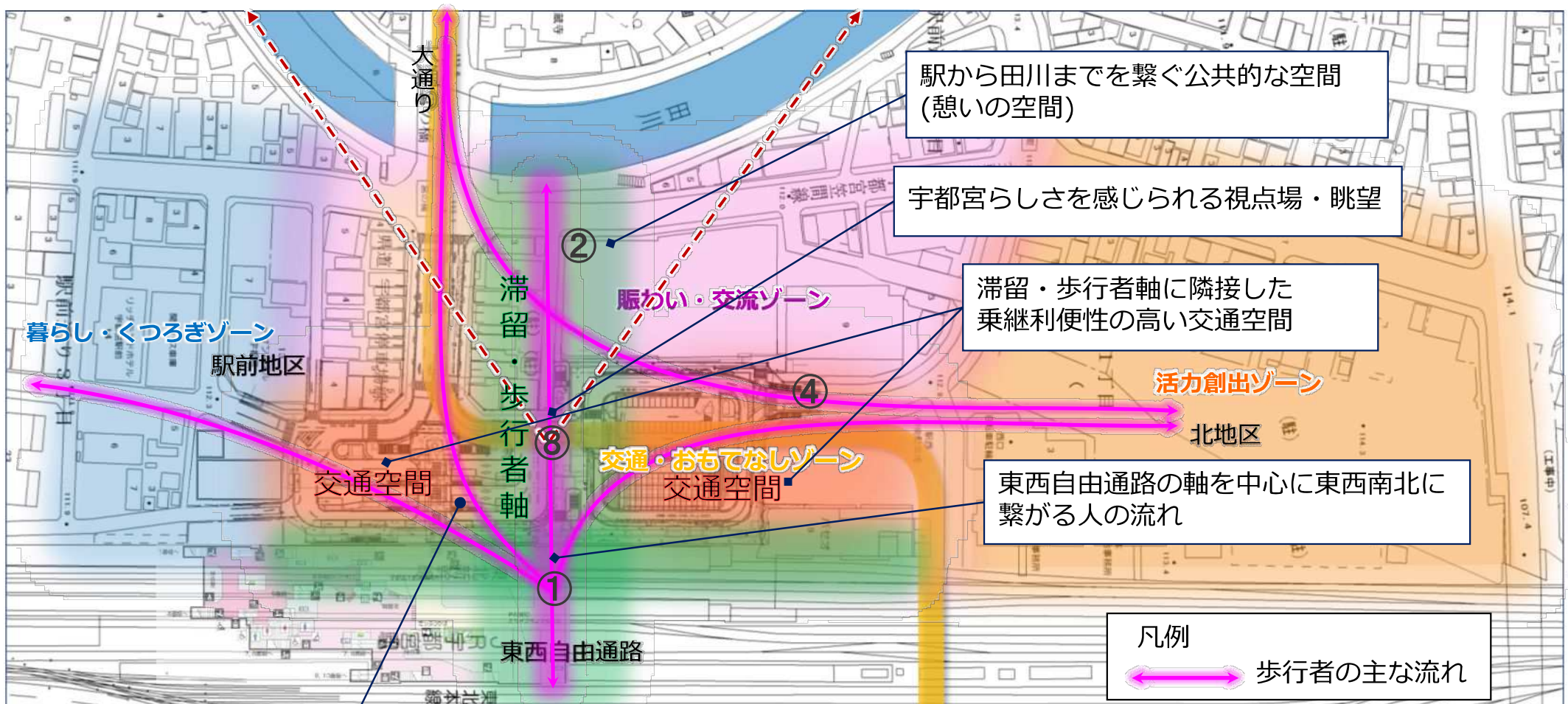
(6) 将来像の実現に向けた取組方針

現状

駅前広場の整備
(2030年代前半)

将来像
(概ね2050年)

【拡大図】



※③⑤⑥⑦⑨⑩については、駅前空間全体に係る取組方針

※ 基本構想における「賑わい・交流ゾーン」や「交通・おもてなしゾーン」などの役割を整理